

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.24 2006 年 9 月 20 日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース項目

### 日本ヒューレット・パカード、映像や音声遅延のほとんどない等身大のバーチャル会議システムを日本市場向け発表

日本ヒューレット・パカード株式会社(東京都品川区)は、バーチャル会議システム「HP Halo Collaboration Studio(エイチピー・ハロー・コラボレーション・スタジオ、以下 Halo)の販売を 8 月 22 日から開始した。同時に同社市ヶ谷事業所内に Halo スタジオを開設。

Halo は、高品位 50 インチのディスプレイ3台を使い、クリアな音声と

合わせ相手の体の動きや表情の変化など実物大でリアルに読み取ることができ、同じ部屋の中で向き合っているような対面型会議を可能にするシステム。

「映像や音声の遅延はほとんど発生しない。」(HP)という。今回の発表では、同社市ヶ谷事業所と米国ワシントン DC の同社 Halo スタジオを結び Halo の記者発表会とデモが行われたが、体感的には、相手の表情や動作、声などは映像や音声のブレや遅れもなく違和感なく Halo を体験できた。

Halo は、コーデックなどのシステム機器、スタジオ内の内装品などの設備からネットワーク回線の準備、設置作業、運用保守サービスまでの全てをパッケージ化したアウトソーシングサービス製品。同社が設置したグローバルな Halo 専用の光ファイバー・プライベート・ネットワーク「Halo Video Exchange Network(HVEN)」に、HVEN に接続するための光

ファイバー専用回線、そして Halo スタジオ本体、遠隔保守とコンシェルジュサービスから構成される。また、遠隔保守とコンシェルジュサービスを含め Halo は、24 時間、365 日体制にて利用ができる。



HP Halo Collaboration Studio

HVEN は、HP がグローバルに運営するプライベート・光ファイバー・ネットワーク回線。世界各国に設置される Halo スタジオ間を接続する。高速で信頼性の高い広帯域全二重の回線で米国の光ファイバー・ネットワークの標準規格「SONET」の OC-12 (622Mbps) に対応している。このネット

ワークは、HP 自社内ネットワーク、Halo ユーザーの社内ネットワークや外部公衆インターネットには接続されず、完全に Halo 専用として使用されるネットワーク。ネットワークは、今後順次 OC-48 (2.5Gbps) 接続へ移行を計画しているが既に、ニューヨークからロンドン間では OC-48 接続となっている。

Halo スタジオ本体は、どの世界各国どのスタジオにも、システム機器から内装品まで全て同じ仕様の設備が使われる。まず、システム機器としては、ディスプレイは、50 インチのものが人物用として3台、データ共有用として1台、高精度の人物用カメラが3台、書画カメラ的に使用するズームカメラが1台、高感度マイク(テーブル上)が3台、そして、サーバー、UPS、コーデックなどの必要機器一式。そして、内装品や照明器具などでは、照明器具、会議机、

椅子、防音壁、会議室設備一式からなる。PCを接続する場合は、VGA ケーブルにて接続する。

遠隔保守とコンシェルジュサービスは、障害時や修理時に、ネットワークの接続状態を遠隔から診断し補正したりするだけでなく、使用方法などの相談にも対応する。



同社市ヶ谷事業所にある Halo スタジオとワシントン DC を接続してのデモ

Halo での接続は、データ共有用の画面に表示されるわかりやすいユーザーインターフェイスを利用してマウスを数回クリックし、相手のアドレスをクリックするだけで簡単に接続し、Halo のセッションが行える。また、Halo スタジオ内の電話には、HP のソフトウェア(自動ダイヤルテクノロジー)が組み込まれており、Halo スタジオ外と電話会議を行うことが可能。Halo スタジオがないところから、電話会議で Halo のセッションに参加することが可能ということ。また、現在では、Haloは、ポイントツーポイントの接続だが、今後多地点接続でのサービスも提供予定だ。

Halo は、米国ドルでの価格体系となっており、Halo スタジオ 1 室の初期設置費用は、425,000USD(約 4,888 万円)(2 室導入の場合の参考価格)。月々の運用保守サービスの価格は、米国内では、18,000USD、日本国内では、30,000USD となっている。通信コストは各国で異なるため料金は国毎に変わる場合がある。

「Halo は、最初アニメーション製作会社の Dreamworks 社から話があり、クリエイティブな仕事をする人たちが本当に

使い物になるコラボレーションツールを作ってくれということで開発した。全くテクノロジーを意識させない究極のコミュニケーションツールと思っている。」(日本 HP 取締役副社長 HP サービス事業統括 石積 尚幸氏)

現在は、Halo のプロトタイプ開発に協力した Dreamworks 社の他に、ペプシコ社、AMD 社などがすでに活用しており、日本企業では、キヤノン株式会社が導入を決定したという。HP 社内でも Halo は頻繁に活用されており、東京での設置が 23 番目になるという。

同社では、日本国内に Halo ビジネス推進部を新設、グローバル展開を行う企業を中心にこの Halo を提供していく考え。また、導入にあたっては、HP ファイナンシャルサービス株式会社(東京都品川区)経由でのリース導入でも提供する。

(関連レポート :Halo レポート CAN レポート・ジャパン Vol.8 No.7 2006 年 3 月 10 日)

## Codian 社、中小企業向け小型多地点接続装置をリリース

多地点接続装置専門メーカー英 Codian 社(コーディアン)の発表によると、中小規模企業向けの小型多地点接続装置「Codian MCU 4203」をリリース。

MCU 4203 は、映像用に 6 ポート、音声用 6 ポート搭載し、テレビ会議と音声会議混在の多地点接続が行える。また、ユニキャスト方式によるストリーミング(30 セッション)をサポート。多地点会議をストリーミング配信が可能。さらに、暗号化、広帯域音声、ハイビジョン多地点映像(多画面分割)、音声と映像の品質を向上させるユニバーサルポート技術などを搭載。

同社 CEO David Holloway 氏によると、「中小企業が多地点接続機能を必要とする場合、テレビ会議端末内蔵の多地点機能を今まで活用する機会が多かったが、この MCU 4203 の専用装置で高品質の多地点会議ソリューションを提供できる。」と述べる。

## ノバテック、米ワールド・コミュニケーションズ社 SIP テレビ電話機日本国内での販売開始

ネットワーク/VoIP関連のソリューションを提供しているノバテック株式会社(東京都品川区)は、米ワールドゲート・コミュニケーションズ社(WorldGate Communications)の小型卓上



上のテレビ電話「Ojo(オジョ)(写真左)」の日本における販売代理店契約を締結したと発表。

ノバテックは、8月中旬に出荷を開始し、通信事業者、VoIPプロバイダ、インターネットサービスプロバイダ(ISP)などに向けて、IP-PBX製品などと組み合わせて包括的なネット

ワークソリューションを提供していく考え。

Ojoは、単体型のSIP対応テレビ電話機で、筐体後部にあるイーサネットポートを持ち、そこにインターネットにつながったケーブルを接続、Ojo用のSIPサーバーに接続登録されることで、対向でもう一台のOjoテレビ電話機とテレビ電話通話が行える。IPアドレスは、固定IPアドレスでなくても、DHCP(接続毎にISPから動的に割り振られるIPアドレスを使用)によるインターネット接続でも可能。また、ルーター下部のプライベートIPアドレスからの接続でも基本的に問題なく接続できるという。

Ojoは、電源を入れると、自動でOjo用のSIPサーバーへ接続を開始し、接続し登録されると初めてIPテレビ電話通話が行えるようになる。北米ではOjo用のカスタマーセンターがあり、SIPサーバーへの接続やそのほかの問題があれば、カスタマーセンターで対応する体制がある。

Ojoの機種については、「PVP-900(写真上)」と、コードレス電話機が付いた「PVP-1000」の2機種を提供する。PVP-1000は、電話機画面の下型のネック部分に、ダイヤルボタンや各種操作ボタンが付いているが、その部分が取り

外し可能となっており、テレビ電話通話中でも、その部分を取り出してそれを受話器として通話に使える。また、そのままネック部分においた場合は、ハンズフリーでのテレビ電話通話も行える。PVP-900は、コードレス電話には対応していないため、ハンズフリーでの通話が行える。ハンズフリーでの通話の場合、筐体横、つまりネックの台座になっている部分の横側にボリュームがある。台座の上、ネックの裏側にはスピーカー、ネック部分にはマイクが内蔵されている。

スクリーンは、相手の通話者が見やすい縦長の画面で、その上部にカメラ、ワンタッチの音声/映像のプライバシー制御機能、メッセージ録画機能、映像モニター、全二重スピーカーフォン、写真付きカラーID(相手識別)、電話帳、などがあり、基本的操作は、ネック部分にある、ボタンを操作することによってOjoの機能を操作することができる。操作時は、ネック部分を手に持って、ボタンを押したり、選択ボタンを押したりなどの操作で行える。メニュー操作は、画面に表示されるメニュー表示を見ながら選択していく形で操作するため、わかりやすく簡単な操作性を実現している。

メッセージ録画機能は、不在着信時の留守番を映像で対応し、テレビ電話でかけてきた人(Ojo)も、映像付きで留守番メッセージを入れることが可能。

通信プロトコルは、SIPを採用している。映像符号化には、H.264を採用しているため、同社によると、100kbpsの帯域でも十分高品質な映像通話を可能としていると説明する。

ノバテックは、2002年に日本におけるインテル社テクニカルレップ第一号として認定。通信器機及び組み込み機器メーカーへのインテル社の通信機器向けプロセッサ製品及び各種組み込み用途用マクロプロセッサの技術サポート、コンサルティング及びソリューション開発を行っている。また、VoIP、IP-PBX、ルーターなどのネットワーク関連製品、デジタルホーム関連製品のトータルソリューション及び開発支援キット向けのハードウェア・ソフトウェアを含むさまざまなアプリケーションソリューションを提供する。

1987年3月設立。

(CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.13 2004年8月15日、Vol.7 No.2 2005年1月15日、Vol.8 No.9 2006年3月31日等)

### ダイエー、シスコのユニファイドコミュニケーションソリューションを導入、少人数の電話会議にIPフォンを活用、地方の事務所や店舗との会議実施

シスコシステムズ株式会社(東京都港区)の8月11日のプレス発表によると、株式会社ダイエー(東京都江東区)は、シスコのユニファイドコミュニケーションソリューションを導入したと発表。

ダイエーは、5月25日から6月18日にかけて本社を移転。これに伴い、店舗網を含めた全社ネットワークの再構築を実施。本社と多摩データセンターに、呼制御サーバー「Cisco Unified CallManager(シスコユニファイドコールマネージャ)」をそれぞれ設置し二重化している。コアスイッチには、「Cisco Catalyst 4948」を、端末には、「Cisco Unified IP Phone 7961G」を1250台、「Cisco Unified IP Phone 7970G」を50台、「Cisco Unified IP Phone 7912G」を100台の計1400台を導入し、本社ネットワークでのデータと音声の統合を実現する。

少人数の電話会議には、IPフォンを活用し、地方の事務所や店舗との会議を行えるようにする。今後は、地方の事務所及び店舗に順次ボイスゲートウェイを設置し、既存PBXを残しながら拠点間のIP化を推進。業務プロセスの合理化やインフラ統合によるコスト削減などを図る。

今回のシステム設計構築は、ユニアデックス株式会社(東京都江東区)が担当。同社の電話のコールを簡易化する同社の「IPフォンナビゲーター」が活用される。PCの画面上から電話をかけたい相手を検索し、ワンクリックで電話をかけたり、メモ機能を利用して外出/休暇中などプレゼンスを登録したりすることが可能。不在時にIPフォンに簡単なテキストメッセージを残せる。

【編集長橋本のコメント】日経流通新聞MJ 2005年8月7日「ダイエー、電話を使い全店会議——月2回、店長以外も参加可能。」には、ダイエーでは、頻繁に出張しなくても意思疎通が行えるようにする目的で、本社と全店とを電話会議で結び店長会議(200人参加)を月2回実施。それ以外にも店舗間での活用もすすめているとの記事が出ている。電話会議導入ユーザーとしては、国内最大規模になるのではないかと思う。

### 【海外 news】シスコユニファイドコミュニケーションを活用した米加州医療サービス向け遠隔通訳サービス

**Videoconferencing Insight 誌 : The new Health Care Interpreter Network in California uses voice and video over IP to remove language as a barrier to quality healthcare: about 40% of Californians do not speak English at home**

米国加州ヘルスケア通訳ネットワーク(HCIN, Health Care Interpreter Network)のコールセンターでは、シスコのIPコミュニケーションのソリューションを活用し、多民族化が進む加州の州民に対して質の高い



ヘルスケアサービスの提供を行っている。カリフォルニア州では、すでに州民の40%が英語以外の言語を自宅で使っているという。

ヘルスケアサービス提供事業者が最近行った調査によ

ると、70%の回答者が英語で、病気や医者からの診断についての十分な理解が出来ていないという結果がでた。つまり患者が十分に自身の症状について英語で説明あるいは説明を受けるのが困難なケースが多いということ。そうすると、十分な医療サービスが提供することができないため、症状を悪化させたりする可能性がある。こういった状況を改善するため、医療関係機関では熟練した医療専門の通訳士について早急な対応が望まれている。

医療現場での通訳サービスは、単にあればよいというものではなく、喫緊の必要性がある。2006年5月のカリフォルニア大学の調査によると、約100万人のHMO会員は、英語での意思疎通に問題があり、それによって、医療サービスが十分に提供できないという現状がある。カリフォルニア州法は、1990年以来、医療機関に対して通訳アシスタンスサービスの提供を義務づけてきたが、州議会は新たな法律の制定を近々行う予定で、それによれば、通訳サービスのコストを捻出するための免許制のマネージド・ケア・プランを義務化するとしている。

HCIN 自体は、公立の病院やその他の医療機関が集まったコンソーシアムが運営しているが、多民族化が進んでも、英語が非母国語の州民が、医師などとのコミュニケーションを十分行うことができ、質の高い医療サービスを受受できる環境を実現することを目的として活動している。

HCIN は、通訳サービスを提供する Paras & Associates 社がネットワーク設計や管理をまとめているが、パイロット試験サービスは、2005年8月から実施。運営上の資金的な支援は、カリフォルニア・ヘルスケア基金などから行われている。

運営は、3つの公立病院、コントラコスタヘルスサービス、サン・ジョアquin総合病院、サンマテオメディカルセンタによって行われており、HCIN の初期の段階からこれらの病院は、HCIN の成功に尽力してきた。現在メディカルセンタには、4 台のビデオモニタ、そして音声のみの通訳システムを補助として備えている。

HCIN を活用することで、現在 300 から 400 名の病院関係者が、テレビ会議システムあるいは電話を通してこの通訳サ

ービスを簡単にかつすぐ利用できる環境が提供されている。HCIN ネットワークでは、月に約 3000 のテレビ会議か電話による通訳が行われており、カンボジア語、ヒンディー語、スペイン語など5言語に対応している。

また、HCIN では、プライオリティコールとして、緊急の通訳が必要な場合、優先して通訳サービスに即座に接続されるサービスも提供されているが、通常は、通訳サービス対応時間は 5 分以内で終了。また接続にかかる平均の時間は、42 秒。複数の利用者がある場合順番待ちとなるが、接続応答時間については改善されつつある。また単に通訳サービスに接続し適当な通訳士が対応するだけでなく、男性や女性の通訳士、あるいは、メンタルヘルストレーニングに強い通訳士など要望にあわせて最適な通訳士をリクエストすることも可能だ。それでも、もし、必要とする適当な通訳士がいない場合は、HCIN は、自動的に音声での商用通訳サービスへ転送する仕組みになっている。

運営主体の病院にとっては、今回の HCIN によって通訳士を共有することで、貴重な通訳士を確保することが可能になった。また、提供可能言語数を増やし、対応能力を強化することができるようになった。HCIN によって、病院側スタッフにとっても今までの負担を軽減し質の高いサービスが提供できるようになり、患者はその恩恵を十分受けられる環境が整った。そういった意味では、病院経営の合理化が求められる公立病院にとっては、この HCIN は重要な試みのひとつだ。患者へのサービスを向上させながらも、相反するコストアップによる州税の浪費を避けることが可能になるからだ。

HCIN は、シスコのユニファイドコミュニケーションシステムをベースに構築されている。そのシステムには、「Cisco Unified Contact Center Express」、「Cisco Unified CallManager」が活用され、自動化された IP ベースの音声とビデオのコールセンタ機能を提供している。また、システムの管理運営は、Quest 社のテクノロジー・マネージメントのマネージドサービス及びレプリケーションセンタにて行

われている。

HCIN ネットワークの実際のネットワーク設計と構築は、シスコシステムズのゴールドパートナーである、Quest 社が行っている。MPLS ネットワーキング、ファイヤーウォール、シスコ IP ボイス&ビデオインテグレーションなどの設計と構築のコンサルティングサービスを提供してきた。Quest 社は、この HCIN ネットワークの一日 24 時間週 7 日間休み無くネットワークの監視を行っている。

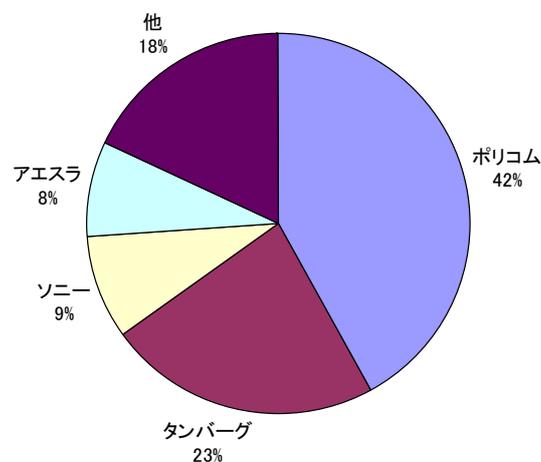
HCIN システムは、今後対応言語を増やし、カリフォルニア州の他の病院、たとえば、リバーサイド郡地域医療センターやランチョ・ロス・アミーゴ国立リハビリテーションセンターなどへサービスカバレッジを拡大させていこうと考えている。そして、その次の段階としては、全米各州への拡大あるいは、医療関係以外の政府機関などへの提供も検討している。

**Wainhouse Research 社：2006 年第二四半期  
テレビ会議市場状況発表、ワールドワイドでは、  
39,089 台出荷、1 億 9560 万 USD 売上  
Q2-06 Videoconferencing Industry Statistics  
Q2-06 Conferencing Service Provider (CSP)  
Industry Statistics**

米会議システム市場専門調査会社 Wainhouse Research 社(ウェインハウスリサーチ)の発表によると、2006 年第二四半期(4月-6月期)のワールドワイドテレビ会議市場は、前四半期、対前年比比較で好結果となった。ただひとつ問題点といえば、対前四半期比でのオールインワンタイプのテレビ会議システムは、売上とユニットベースでマイナス成長だったということ。

また、今四半期は、ワールドワイドベースで見た場合、中国ベンダー各社(Team China)にとってもよい結果に終わったが、中国市場のみを見た場合、海外ベンダーは本国の中国ベンダーよりも好成績だった。いずれにしても、中国市場は、第二四半期は売上、ユニット数ともに力強い成長を見せている。

北米市場のワールドワイドの中で見た場合のシェアだが、42%の過半数近くを占める。



第二四半期の各社市場シェア (ワールドワイド出荷台数)

Group Videoconferencing	Q2/05	Q1-06	Q2-06	Seq. Growth	Annual Growth
Modular Group Rev	\$155.1	\$164.2	\$182.2	10.9%	17.5%
Executive Revenues	\$10.5	\$15.3	\$13.4	-12.5%	27.8%
<b>Total Group Revenues</b>	<b>\$165.6</b>	<b>\$179.6</b>	<b>\$195.6</b>	<b>8.9%</b>	<b>18.1%</b>
Infrastructure Rev	NA	\$46.1	\$52.3	13.4%	NA
Modular Group Units	29,450	33,602	34,276	2.0%	16.4%
Executive Units	3,268	5,370	4,813	-10.4%	47.3%
<b>Total Group Units</b>	<b>32,718</b>	<b>38,972</b>	<b>39,089</b>	<b>0.3%</b>	<b>19.5%</b>

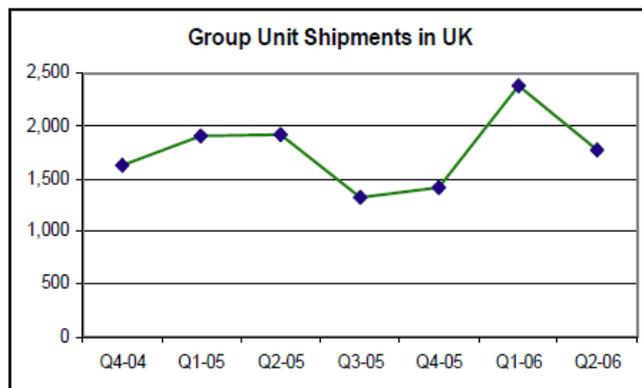
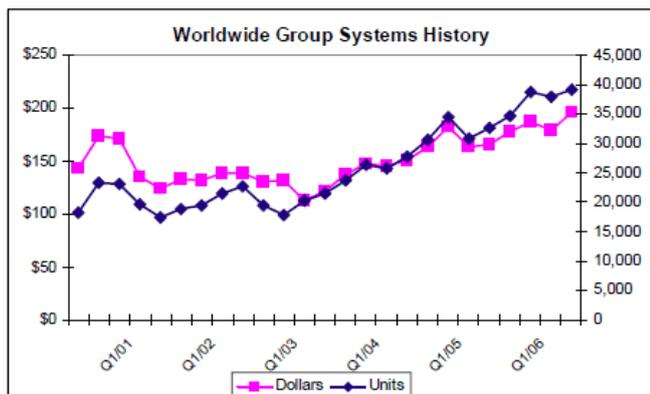
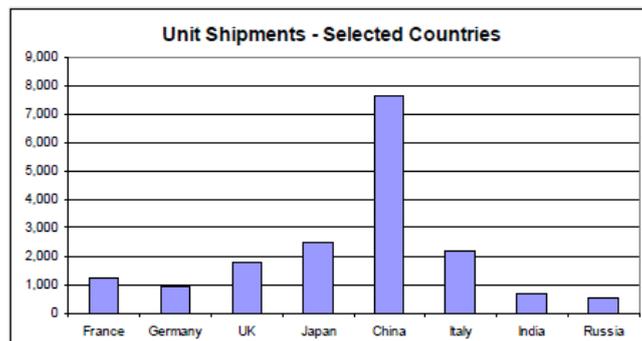
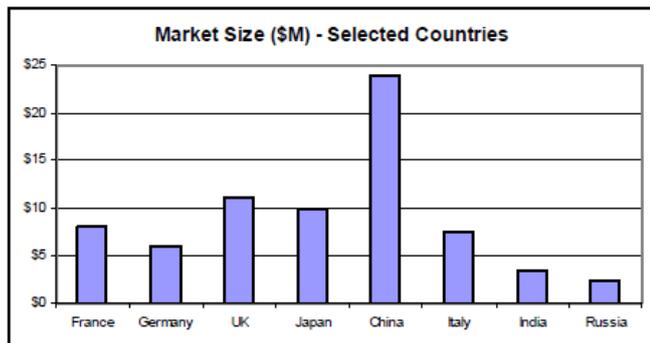
グラフ上：テレビ会議専用端末(ルームタイプ、オールインワンタイプ、インフラ装置系)の売上、及び出荷台数表。Modular Group(ルームタイプ、セットトップ)、Executive(オールインワンタイプ)、Infrastructure (MCUなどのインフラ製品)を示す。

ワールドワイドの多地点接続サービス事業者(CSP)市場は、約 9 億 USD(約 1050 億円)。その内の、約 7 億 USD(8200 億円)は、電話会議サービス(予約要及び予約不要サービス両方)が占める。

市場状況の詳細は、有償レポート「SpotCheck report」を年間購読すると、四半期毎に購読者へ送付される。テレビ会議システムと多地点接続サービス事業者それぞれのレポートが購読できる。詳細は、

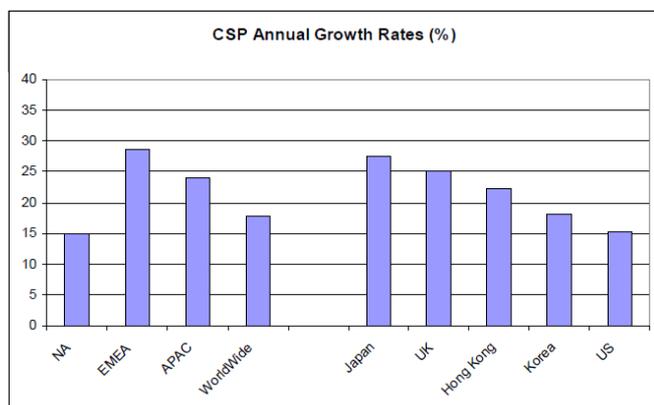
<http://www.wainhouse.com/reports/WR.VCspotcheck.pdf>

<http://www.wainhouse.com/reports/index.html#sc>



グラフ上：国別売上ベースによる市場規模、左からフランス、ドイツ、イギリス、日本、中国、イタリア、インド、ロシア  
 グラフ下：過去 2001 年第一四半期から四半期毎の売上と端末台数ベースの推移

グラフ上：国別出荷台数、左からフランス、ドイツ、イギリス、日本、中国、イタリア、インド、ロシア  
 グラフ下：イギリスにおける 2004 年第四四半期から四半期毎の出荷台数推移



グラフ上：多地点接続事業者の年ベースの成長率。左から北米、欧州(中東アフリカ)、アジア太平洋、ワールドワイド、日本、イギリス、香港、韓国、米国

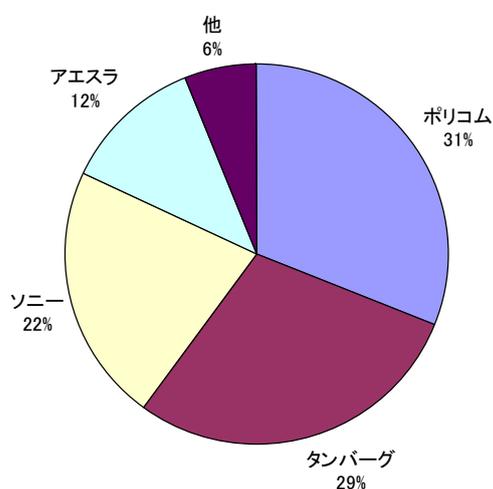


【海外 news】VTRON Videoconferencing In Europe ニュース：ドイツ、オーストリア、スイスの第二四半期テレビ会議市場

Quartalszahlen Q2/2006

ドイツの会議システム関連コンサルティングサービスを提供する VTRON 社(ブイトロン)の発表によると、ドイツ、オーストリア、スイスにおける第二四半期のテレビ会議市場の各社シェアは次ページのグラフのとおりとなったが、前四半期にくらべ、ドイツ語圏での市場は非常に良い結果となった。アエスラは、第一四半期の5%から 12%へ増

加、ソニーは、第一四半期の 29%から 22%へ若干減。タンバークとポリコムは、第一位と第二位の市場ポジションを堅持。前四半期とほぼ同じシェア。



ドイツ、オーストリア、スイス第二四半期各社市場シェア



<http://www.vtron.de/>

## セミナー・イベント情報

### TANDBERG プライベートセミナー H.323 と Security について

日時: 10月4日(水) 15:00~17:00

場所: TANDBERG 日本支社 4F セミナールーム

主催: TANDBERG 日本支社

詳細・申込:

<http://www.tandbergjapan.com/services/training.html>

### BizInnovation 2006

#### ビジュアルコミュニケーション Autumn 2006

日時: 2006年10月18日-20日

場所: 東京ビックサイト

主催: 日経 BP 社

\*BizInnovation 2006 の特設イベントとして開催。

詳細・申込: <http://expo.nikkeibp.co.jp/biz/vc/index.shtml>

## 定期レポート英語版

定期レポート英語版ですが、9月上旬発行予定でしたが、10月上旬に変更とさせていただきます。

英語版は、この日本語での定期レポートと他の CNA レポート関連の活動に注力するために、四半期毎発行にするか、10月を最後に当面休刊するか、で検討しております。まずは日本語での定期レポートの内容充実化を図っていきたくと考えております。

英語版ページ:

<http://cnar.jp/cna/cnar-e-icnu.htm>

## 編集後記

日々CNA レポート・ジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。今号もお読みいただきましてありがとうございました。

CNAレポートサイトへのスポンサーシップ(ロゴ、広告文字掲載)、会議システムに関する講演、社内勉強会、コンサルティング、セミナー企画など募集しております。よろしくご検討いただければ幸いです。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

編集長 橋本